

# 日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成 18 年11月1日～平成 19 年10月31日

テーマ： 校内、地域の環境を生かした総合的な学習、理科学習の展開

氏名： 釣 尚義 所属： 横浜市立馬場小学校

## 1. 課題の主旨

本校を取り巻く環境は、住宅が多い中、緑や水環境が点在し、自然とのふれ合いをもつことができる良好なものである。また、校内の畑やプランターで栽培活動をさかんに行ってきた歴史もある。

自然、命にふれながら、子どもたちが日々を生き生きと過ごせる学校でありたいとの願いのもと、この素晴らしい環境を生かして、総合的な学習や生活科、理科学習をさらに充実させていきたいと考えている。

そのため、地域の自然だけを材とするのではなく、校内にも子どもたちが自然や命に日常的にふれ合うことができる自然環境を整備していきたい。

## 2. 準備

○本校の環境教育の全体計画を作成した。

○校内の特別委員会である環境委員を中心に、教務、総合的な学習部会、理科部会が集まり、本校の環境教育の内容について話し合い、確認した。

- ・省エネルギー、省資源及びリサイクルの推進
- ・栽培活動の充実
- ・自然や命にふれることができる校内環境の整備
- ・地域の自然を生かした学習の展開

## 3. 指導方法

各学年の学習単元(総合的な学習、生活科、理科を中心に)の中で環境教育を展開した。対象は学校の全児童である839名。

#### 4. 実践内容

##### ○1年生

- ・一人一鉢の花の栽培活動(生活科)
- ・校内のプールで採集したヤゴの飼育活動(生活科)

##### ○2年生

- ・一人一鉢の野菜の栽培活動(生活科)
- ・地域の畑をお借りしてのサツマイモの栽培活動(生活科)

##### ○3年生

- ・プランターを利用したオクラの栽培活動(理科)
- ・校内でキャベツを植えて採集したモンシロチョウ(卵～成虫)の飼育活動(理科)
- ・市民の森での生き物調査(総合的な学習)

##### ○4年生

- ・校内でのツルレインの栽培活動(理科)

##### ○5年生

- ・校内に作成した田んぼでの稲作活動(総合的な学習)

##### ○6年生

- ・校内の畑でのジャガイモの栽培活動(理科)
- ・市民の森、花木園、せせらぎ緑道の自然度調査(総合的な学習)
- ・校内に水辺のビオトープ作成(総合的な学習) ※まだ完成していません。今年度中に完成予定。

##### ○5・6組

- ・校内に作成した簡易田んぼでの稲作活動
- ・校内の畑での野菜の栽培活動

##### ○全学年

- ・校内の花壇での花の栽培活動

##### ○環境委員(教師)

- ・淡水魚を中心とした身近な生き物を展示したアクアリウムの作成

#### 5. 成果・効果

各学年での栽培活動の充実を図ることができ、子どもたちの食や自然に対する理解が深まった。

特に校内に作成した田んぼ(45㎡)における5年生の稲作活動は2年目を迎え、田作りから収穫、調理まで一貫して行うことで、体験を通した稲作への理解だけではなく、日本の食を支える稲が生長する様子、田んぼに生き物が集まり生態系がつくられる様子まで観察することができ、自然への認識を高めることができた。

また、6年生は、地域の自然とふれ合い、そのよさを十分感じる中で、同時に地域の自然が失われていることに問題意識をもち、校内にビオトープをつくる活動につながった。自然を守るだけではなく、人の手で復元することの大切さを考えることができた。

生き物を中心に自然とふれ合うことで、各学級での飼育活動がさかんになるなど、自然への関心を高める児童が増えてきた。校内のアクアリウムを一生懸命観察する児童の姿も見られた。

## 6. 所 感

従来から校内にある栽培環境に、田んぼが加わり、各学年で栽培活動を行えるようになったことは、子どもたちの学習活動の充実といった面だけではなく、一人ひとりが自らの課題に向かって探求していく姿、また、収穫による大きな達成感につながり、子どもが生き生きと過ごすことができる学校づくりに向け大きな力となった。

特に田んぼでの学習は、育て収穫するばかりではなく、田んぼの生態系がどのように成り立っているのか、その中で人間はどうつながっているのかまで考える学習が展開でき、さらなる可能性を感じさせてくれた。

環境教育と言えば、温暖化など生活の延長にある問題を取り上げる事が多いが、栽培活動や自然とのふれ合いから学ぶことによって自然への認識を高めたり、自然への愛情をもつことがまず大切であると考えている。その上に温暖化対策や省エネルギーに向かう実践的な態度が養われていくと思う。本校では、これからも校内や地域の自然とのふれ合いを第一に考え、環境教育を実践していきたい。

## 7. 今後の課題や発展性について

環境教育の全体計画を作成したこと、児童が十分に体験できる校内の栽培環境を整備したことによって、総合的な学習、生活科、理科学習の内容は充実した。今後は、今年度の取り組みが来年度以降も継続されること、また、他教科の中でも環境教育が展開されることを目指して、環境教育のカリキュラムの作成が必要であると考えている。

さらに、作成中である水辺のビオトープを中心とした児童が自然とふれ合える環境づくりを進めることで、児童が栽培、観察を中心とした体験的な活動を通して自然への認識を高め、持続可能な社会の構築のために実践できる態度を養えるようにしていきたい。

## 8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

NHK 食料プロジェクト「子ども農漁業体験教室」取材及び放映（NHK教育）

※平成18年度5年生の稲作活動